

## 富山県総合計画審議会 第1回県西部地域委員会

1 日時 平成29年8月3日(木) 15:30～17:30

2 場所 ホテルニューオータニ高岡 3階 雨晴

### 3 出席委員(五十音順)

川村委員長、高橋正樹副委員長(オブザーバー出席:村田副市長)、夏野修副委員長、明石委員、稲田委員、江尻委員、大坪委員、尾崎委員、栗栖委員、小泉委員、桜井委員(オブザーバー出席:澁谷企画政策部長)、清水委員、高橋克史委員、田中委員、寺下委員、夏野元志委員、畑委員、服部委員、花島委員、林説則委員、林正之委員、牧田委員、八十島委員

### 4 議事

- (1) 新総合計画の骨子案について
- (2) 地域別の特性と取組みについて

### 5 発言要旨

(1) 知事挨拶 石井知事

- ・ 本日、富山県総合計画審議会の第1回県西部地域委員会を開催しましたところ、委員の皆さまには、大変お忙しい中、またお暑い中をご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

ご承知のとおり、富山県では平成24年4月に県政運営の指針ということで、「新・元気とやま創造計画」を策定いたしました。計画はそれなりにこの5年間、順調に進んできたと思っております。ただ一方で、当初からももちろん見込まれておりましたとはいえ、北陸新幹線の開業で当初想定しておりましたよりもむしろ観光の面や企業立地の面、大型商業施設の立地の面で、かなりいい効果が出てきつつあると思います。

しかし一方で、出生率はなかなか期待どおり上がらないなど、人口減少がかなり顕著になっております。ただ、また別の話として、富山県の社会増減、5～6年前までは男女ともマイナスが続いていたのですけれども、20～24歳の男性については3年ほど前からプラス30人になり、次の年が108人になり、さらに去年はプラス300人台になった。女性の方はなかなかそうはいきませんで、20～24歳はまだマイナスが300人ぐらいだったかと思えます。しかし、幸い全世代で取ると、おかげさまでプラスの226人と、11年ぶりにプラスになりました。富山県にいますとこんなものかなと思うのですけれども、この間も某県の知事さんと話をしていましたら、「社会増減でプラスになった」と言ったら向こうはびっくりしまして、そのときにちょっとお聞きするのも失礼だなと思ってあえてお聞きしなくて、後で調べてみたのですが、日本でも東北や山陰、中国、九州といったところを中心に、人口100万～200万ぐらいの県で、毎年社会減が3000人や5000人などというところが実は決して少なくないわけで、そうしたことを考えますと、富山県はそれなりの形ができてきつつあるのかなと。さらに、移住な

どの面も8～9年前は毎年200人でしたが、この3年ほど前から400人を超すようになって、昨年が565人、かつ7割が20～30歳代の方というふうになっております。そういう意味で、明らかに富山県は新幹線の開業ということももちろんありますけれども、それ以外のいろいろな要素も含めて新たな時代に入ってきていると思っております。

そうした中で、今の総合計画もこの際見直しをして、当初から5年ごとに見直すとしていたこともございますけれども、新たな中長期のビジョンを作りたいということです。その際に、活力、未来、安心、総合の四つの部会と青年委員会を設けているのですが、県内各地域にも目配りした計画ということになりますと、地域委員会も作って取り組もうということにさせていただきました。

今の総合計画ですと、県内4地域にしていたのですが、その後「新幹線戦略とやま県民会議」のときに三つの新幹線駅を中心に県内を三つに分けようとしてきたこと、また「とやま未来創造県民会議」の際にもそれを踏襲して三つにしたこと。かつ「とやま呉西圏域連携中枢都市圏」というものも立ち上がって、県西部6市、ぜひそういう形でやられるということで、県としてもいろいろな面で応援させていただいてきたわけであります。

そこで、今度の計画でも三つの地域ということで、県西部地域を一つのくりに一応考えてこの地域委員会を立ち上げましたけれども、そうは申しても例えば砺波市や南砺市を中心に、砺波野の独自性のようなものもやはりあるのかなと思っております。そういった点についてはいろいろとご意見を出していただきまして、最終の取りまとめのときに県西部連携中枢都市圏ということで一つの位置付けにしながらも、また砺波野方面の特色や魅力といったものもしっかり位置付けができればいいなと思っております。

今日は1回目ということで、もう一度この秋に、この地域委員会を開きますけれども、せっかくの機会ですので、忌憚のないご意見を頂ければと思います。ひとつよろしく願いいたします。

## (2) 委員長及び副委員長の指名

- ・ 富山県総合計画審議会運営規程第6条第1項により、総合計画審議会の永原会長から、本委員会の委員長に川村委員、副委員長には高橋正樹委員、夏野修委員、北村委員が指名された旨の報告があった。

## (3) 委員長挨拶

### 【川村委員長】

- ・ 県西部地域委員会の委員長を承りました川村でございます。皆さま方のご協力を賜りながら職責を全うしたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

これから審議していくものは、新しい総合計画、やはり時代の激しい変化の中で、いわゆる県づくりの将来ビジョンを示していくということでありまして、大変重要なことと考えております。

この委員会では、富山県西部の各地域で各方面の中心的な役割を担っている皆さん方にお集まりいただいております。いろいろな経験や活動などを通して、自由闊達な議論

をしながら、しっかりしたものを作っていきたいと思っております。

県西部が持っている地域の強みということをどう活かしていくか、そしてそれによってどう発展させていくか、そのためには何が必要なのかということ、しっかりと皆さんからご意見を頂きながら取りまとめていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

#### (4) 資料説明

<事務局より資料5～8を説明> 省略

#### (5) 意見交換

##### 【川村委員長】

- ・ ただ今の事務局からの説明について、何かご質問及びお伺いしたいようなことがあれば、手を挙げて申し上げていただきたいと思います。

ないようでしたら意見交換に移りたいと思います。今回の会議で頂きたいご意見としては資料7に記載してありますが、「地域の特性と課題」について配付資料の記載内容に加えて特に盛り込むべきものはないかということ、地域の特性を踏まえて今後10年間に県として取り組むべき政策としてはどういったものがあるかといった点から、ご意見を伺いたいと思います。

また、資料6の新総合計画の骨子案の内容に関するご意見、ご提案があれば、それについてもご発言いただければと思います。発言については時間の都合もありますので、大変恐縮ですが、できるだけ簡略に手短にお願ひしたいと思います。どなたからでも結構ですから、挙手にてご発言をお願いしたいと思います。

##### 【牧田委員】

- ・ まず「地域の特性と課題」の方で一つ提案ですけれども、県西部というのは非常に広いわけでありまして、観光資源もいろいろ点在しています。新幹線が来るときにも議論はされたのですが、二次交通、三次交通の公共交通のインフラ整備の問題がやはり大事だと思っております、特にその中で私はタクシーの利便性というのは非常に大きな鍵を握っているのではないかと考えているわけです。バスや電車が網羅し切れないところはどうしてもタクシーに頼らざるを得ないと考えているのですけれども、なかなかタクシー会社さんの事業環境も厳しいということもあって、あの小杉駅においてすら、駅前にタクシーがないときがあるのです。小杉でもそういう事態でありまして、これが例えば砺波平野のところに行ったり、いろいろなところに行ったりすると、ではタクシーがそれだけ利便性を満足するだけの役割を果たしているかということ、決して私はそうではないと思っております、ぜひ公共交通機関の選択と集中が私は大事だと思います。要するに、この県西部では、どういった公共交通機関に特化して、そこに資本を投下していくかということも大事だと思いますので、そういう意味で私はタクシーというものが大事かなと思っております。
- ・ それから、全体の計画について、一つ気になったことがあるので申し上げたいと思います。それは「人づくり」の部分でありまして、これから当然、技術的な革新が進んで

AI が中心になっていくわけですがけれども、確かに IoT、AI で生産性の向上は図られるのですけれども、それは書いてあります。けれども、将来的に今の子どもたちがその AI を使いこなせるようになるか、それとも AI に使われるかということも考えなければいけないと思っています。

AI を使いこなすためには、つまり AI というのは膨大なデータを統計解析して結論を導き出すだけなので、AI は感情を持っていないわけです。感情や感覚を持っていないものを使いこなすためには、それを使いこなす人間の感受性の豊かさや共感性、コミュニケーション能力といったものが必要になってくるので、そのベースはやはり道徳心だろうと私は思っています。もう少し踏み込んで AI 時代に備える意味でも、小さいうちから道徳教育を充実していくという項目をぜひ入れていただければと思います。

### 【稲田委員】

- ・ 加越能バスの稲田です。先ほど知事さんから話がありましたように、日本は人口減少時代に既に入っているわけですし、地域の経済において現状を維持するというのは非常に困難になってくると思っています。そういう中で、これから県さんに支援をお願いしたいことが二つあります。人口減少が進む中であって一時的にはありますが地域の経済力を維持するための策としましては、やはり観光客に頼らざるを得ないという見方をしております。

実は国内の観光客は、ここ 5 年はほぼ横ばいであり、増える要素はこの後もない。そうすれば外国人観光客に頼らざるを得ない。そういう時代が来るというふうに思っています。それと最近になって、JR グループが新幹線の乗り放題切符を外国人観光客向けに作っております。これを国も支援してございまして、どんどん利用者が増えるものと考えています。そういう切符によって来県された外国人観光客に県西部の公共交通を自由に使っていただくためには、まずは言葉のバリアフリーと運賃のバリアフリー化を進めていかなければいけないと思っています。

- ・ 言葉については案内板と私どもの車両などに外国語対応をきちんとやっていかなければいけないと思っていますし、もう一つは JR のフリー切符の中にオプションで県西部の、(これは社内でもまだ話していない話なのですが、) フリー乗車券等を格安で載せてもらえないか。これはわれわれ単独の事業者だけでは難しく、やはり県さんやいろいろな人たちの組織が一緒になってやらないとなかなか難しいのではないかと考えています。せっかく白川郷まで多くの人に来ておられます。その方たちのほとんどが金沢へ行って、一部は富山の方へ行っている。その真ん中であるこの県西部は、やや弱い状況です。富山県のためにもこれから力を入れていかなければいけない大事なことだと思っています。

ここに田中市長さんも来ておられますけれども、確かに白川郷から徐々に私どもの世界遺産・五箇山の方へ観光客が流れてきております。観光客を誘導するという事は長期的な視点で考えなければいけないことですが、今やるべきことは私が先ほど申しました二つのことだと思っております、ぜひ一緒になってやらせていただきたい。そしてまた、サポートも頂きたいと思っております。

### 【寺下委員】

- ・ 人の流れを作る、もしくはものの流れを作るという観点で、私の考えですけれども、こういう計画の中に盛り込まれていないかといったら盛り込まれているわけですけれども、新幹線などという、関西方面へ抜けるという、大きな意味で効果も出てきたし、関西方面がつながることによって人の流れは非常に効果が出てくる、さらに効果が出てくると思います。そういう面で、県の方も一生懸命やっておられるというのはよく分かっております。

もう一つ、ものの流れを考えると、東海北陸は、首長さん方も多分今、4車線化ということ非常に強くやっておられますが、この東海北陸から能越の4車線化に合わせて、伏木富山港とのセットでものを考えるというのがこれから非常に必要になるのではないかと思います。盛り込まれているのですが、ここを強く打ち出してほしいという気がします。特にこれがセットでものが動くことになると、県西部にとっては非常に大きなインパクトを与えることとなりますので、県がこういうふうにとセットでやっていくのだという方向性が見えることによって、企業もやはりそういう先行投資を含めてやっていくことになるのではないかと考えております。

それから、今、昼夜間人口比率が県西部で96%強というふうに出ていましたけれども、これは全体で96%なのかもしれませんが、氷見でいえば70%台なのです。90%を超えれば社会減が止まるというデータもあるようですので、実は氷見としてはそこを何とか引き上げたいと、商工会議所も今いろいろ頑張っていて、市長さんも頑張っておられるのですけれども、流れとしてはそうなのだろうと思うのです。社会増を何とか増やしたいという考え方からすると、そういうインパクトの大きい産業などの可能性をぜひ打ち出してほしい。そのために交通インフラというものは非常に重要である。港と道路というもののセット、環日本海というようなアジアを含めた港の取り入れ方、それから名前を出したら駄目なのかもしれませんが、名古屋港に代わるような代替案というものも含めて打ち出していただければ、県西部として相当発展の仕方がまた変わってくるのではないかなというふうに思います。盛り込まれているので、もうちょっと強く出してほしいなというふうな気がします。

### 【畑委員】

- ・ ゴールドウインの畑でございます。会社の仕事の関係で、東南アジアや海外など非常に行く機会が今までもありました。そこへ行ってみて強く感じるのは、この富山県、日本もそうなのですが、特に富山県、非常に環境が良い。3000mの山があって、そして海があって、農産品も非常に良い。それから昨今、日本国内でもいろいろな災害が起きておりますけれども、非常に災害が少ないということで、これは今までも県を中心にブランド化をしていただいておりますが、もっと強く出して、この良さを国内、海外の方に訴えることによって、この富山へ足を向けていただくことができるのではないかとこのことを日頃から感じております。そのためには、しっかりとしたブランド化をして、国内外にしっかりと今まで以上に発信していくということが必要かと思っております。観光や農産品、産業など、そういうものがしっかりとそれぞれのブランドをアピールしていくことが必要かと思っております。

先ほどからも話がありましたように、特に県西部については、失礼な言い方をすると、金沢や能登へ通っていただけとなっておりますが、ここでしっかりと観光していただいで楽しんでいただけるような形をぜひ作っていくことが必要ではないかと思っております。それと、企業としては自分たちのやっている商品、それから会社をしっかりとブランド化することによって、若い人材をしっかりと企業の中に取り込んでいきたいと思っております。そのためにもこの富山県の中で、より良い教育をさらに進めていただきたいと思っております。

#### 【夏野修副委員長】

- 幾つか総論の部分と、ブロック分けの部分はやっと言わなければいけないかなと思っておりますので、申し上げたいと思います。
- 農業に関しまして、「富富富」のようなブランド米と、いわゆる飼料用米という途中に、通常のコシヒカリがあり、最近は業務用米というのがあります。ああいう部分をもう少し出していいのではないかと。となみ野ではかなり作付けされていますので、どうしても富山県の場合は飼料用米を作ることに抵抗がある中で、そういった形での新しい米、「米の需要に配慮する」とは書いてあるのですが、要するに業務用米のことも少し書かれてもいいのではないかと思います。
- それから、商業関係では大型商業施設が西部には大変たくさんありますが、文章を見ているとどうしても商業施設と対比する形での商店街みたいになっておりますが、今はそれと連携するような形のことがあっていいのではないかとという例も全国にもあります。成功例などもありますので、みんなそんなにうまくいかないと思いますが、何となく商店街と大型商業施設というものが対立するものだという発想から離れてできないか。事実上、商店街ではなくて、個店との勝負になるかもしれませんが、そういうこともあっていいのではないかと思います。
- 工業関係では最近、うちの辺りのいろいろな中小企業さんがいろいろな技術を持ちまして、何とか自社ブランド性を出したいという努力をされていますので、そういったものに特化したような制度があっていいのではないかと思います。
- それから、あと幾つか申し上げますが、県西部の特徴としてやはり三世代同居が非常に多いということがいえると思います。一番は小矢部市さん、次が南砺市さん、次が氷見市さん、砺波市は4番なのですが、県全体が13%余り、国全体が5%ぐらいです。例えば小矢部市さんは23.6%、だから4分の1の家が三世代同居している。やはりこれを使わない手はないのではないかと思います。三世代同居というのは、現状認識のところには少し言葉が入っているのですが、家庭の力や教育のところなどで三世代同居という言葉を出して、特徴なのだからそれをもっと強くアピールしてはどうかと思います。
- それから、二つ目ですけれども、魅力発信の関係で、せっかく富山県の幾つかのまちが住みよさランキングで高いものがついています。それから例えば南砺市さんは「住みたい田舎」で全国1位など、いろいろな魅力のことを、われわれが言わなくても他の中央のメディアがやってくれているのです。そういうことをもう少し使ったらどうかと。他県のことを言っただけでは何ですが、福井県は「幸せ度一番福井県」などと言っているのです。本当に幸せかどうか知りませんが、そんなアピールの仕方もあるのではない

かだと思います。われわれが言っているのではなくて、他の第三者が言ってくれているわけですから、ありかなと思います。

- それから、交通の関係でさっき少し話がありましたが、これはどちらで見るのか分かりませんが、あいの風とやま鉄道の支援のところに「枝線との接続」と書いていないのです。一方で、地域交通の充実のところには充実と書いてあるので、どちらも表裏一体だと思いますが、あいの風とやま鉄道は枝線との接続を忘れてしまったのかなと思われたいようにしたらいいのではないかと思います。今が総論の話でございます。
- ブロック分けについては、知事から最初のご挨拶で、今回三つにしたというお話がありました。それなりの思いがあり、ご配慮されたのかなと思います。やはり富山県というのは昔から越中四郡で四つのブロックなわけです。今までの総合計画ももちろん四つだったということ、それから現状的に考えていろいろ調べてみましたが、例えば人の移動を考えたときに、砺波市、南砺市、小矢部市だけの人口流動は、実は高岡市と砺波市との関係よりも深いのです。

そういったつながりを考えたときに、県西部6市というのは大事なつながりですけれども、多分、県西部ブロックで今までやったのは、最近の幾つかのことを除けば、地方拠点か何かのときに呉西全部と新川全部でやったことがあると思いますが、ないと思うのです。新幹線駅三つという話もありました。それから、この間の未来創造戦略のときにも、これは田中市長が出ておられましたけれども、三つということでやはり砺波地方の人は正直言って抵抗があります。医療、介護、福祉、それから最近課題になっている教育、全てブロックとしては四つなのです。

それから、例えば新川圏の人口は、やはり砺波の二つ三つと比べても小さいわけで、そういった中でいくら何でもやるのだったら新川も一緒にしたらどうか。富山県は2ブロックか4ブロックではないかと思っているのです。そういった中で、最初にこれやる(3つにする)というのはやはり抵抗があります。これについてやはり市民の方に聞いても、この後多分、田中市長からまたフォローがあると思いますが、いろいろこの前の戦略のときもいろいろ言われたそうですので、ぜひもう一回、四つにしてもらいたいというのはやまやまですが、ここまで来たらなかなか厳しいということであれば、太いミシン目を入れてほしい。「県に三つしかないものは、三つで終わりだよ」と言われてしまうと、正直、砺波地区の人は「何だよ」ということになりますので、一つなら富山、二つなら富山・高岡、四つなら砺波と新川だろうという、やはりそういう思いは長い思いですから、こういった点はいくら県西部連携の中で言われてくられたとしても、やはりなかなかわれわれとしても納得しにくいところがありますので、ご再考いただければと思います。

だからといって、県西部6市の仕事は連携がない、嫌だとか、それができないと言っているのではなくて、その点については誤解がないようお願いしたいわけですが、よろしくお願ひしたいと思います。では、田中市長さんどうぞ。

#### 【田中委員】

- シナリオにはない連携ですが、おっしゃるとおりでございます。まずは今ほど4地区といたしますか、4地域のことでございますが、総合戦略のときにも同じことで、三つに

分かれたときにやはり砺波、南砺、小矢部の方へ行って議論しますと、「違和感がある」と明確に言われる方が多々おられました。そのときはやはり、高岡・射水を中心とする中枢都市圏連携ということがありましたので、総合戦略についてはそちらの方でよろうよということで、逆に言うと言得させていただいたということですが、やはり文化や医療、福祉、教育といった面でかなり違和感があるというのは砺波市長と私も同感ですので、太いミシン目がいいのかどうか分かりませんが、そういうことでございます。

- あと、総じて私の方から今回のこの計画を読ませていただいて、ちょっと書き方も含めてなのですが、例えば世界文化遺産があって、五箇山があって、ユネスコの無形文化遺産があって、何とかがあってというような、これはずっと昔から同じような書き方なので、本当に最近では歴史的資源をどう活かすかというものが、やはり大きなくくりがあった方がいいような気がします。例えば立山が見える海などを含めて自然資源をどう活かすか。そういった大きなくくりの中で、われわれがどうまちづくり、もしくは観光産業につなげていくかというところを、大枠で一つくくっていただくと非常に分かりやすいと思っています。

当然大きな世界遺産などは当たり前なのですが、明石委員もいらっしゃいますが、例えば伝統的家屋をどう活かすかとか、今まであまり観光的ではない伝統的もしくは歴史的なまちなみをどう活かすかというところは多分、呉西もしくは富山県の一番大きな資源だと思っています。例えば空き家の対策にもつながりますし、その空き家をどう使ってゲストハウスにしたり、オフィスにしたりということも含めて、やはり取り組んでいくところに広がっていくべきではないかと思っています。

南砺市も、五箇山の世界遺産はもちろんですけれども、合掌集落といいますが、合掌家屋を今後どう活かすかということでかなり議論しておりまして、県の皆さんにも大変お世話になっておりますが、改めて建築法や消防法などいろいろな課題がやはり出てきます。しかしながら、国の方は少しずつそのことを考えていただいておりますので、富山県からこの総合計画の中にそういったことをより入れ込んでいただいて、積極的に取り組む姿勢が非常に大事なかなと思っています。

- あと、教育の話がどんどん出ていきますけれども、高校再編の話はここではないのですが、大学の入試制度が変わっていくという中で、われわれ教育県・富山が今後どういう子どもたちを育て、もしくは本物の人間形成や本物の感じ方やコミュニケーションといったことをどう教育の中に入れていくかということは、教育の計画にはいろいろあるわけですが、やはり総合計画の中で少しそのあたりが明確に出ていけばいいかなと思っています。
- 先ほどお米の話もありましたが、実は最近、酒米に力を入れておりまして、このあたりもちょっと触れていただくとありがたい。
- それと、本当に見せ方というか、PRの仕方によってかなり違ってくると思いますので、このあたりを本当に知恵を出して、富山県らしさの中で、世界中もしくは日本の他の県よりも特化したようなイメージづくりは非常に大事ですので、ぜひそのあたりもお願いしたいと思っています。
- 小さくてコンパクトな県ですので、なりふり構わず全てICTのカードで電車もバスも



ポイントもショッピングも全部できるように、何かこれは私の独り言だと思いますが、夢のようなことを言っておりますが、とにかく今後富山県の住みよさの中で、こういったカードを使うとかポイントを使うというのは本当に大事なことだと思っておりますので、インバウンドも含めてですが、こういったところを一步リードすることが大事だと思っております。

#### 【大坪委員】

- ・ NPO 法人 N プロジェクトひと・みち・まちの大坪と申します。県西部を中心に持続可能な社会を目指した地域づくりとして、いろいろと活動している中で、声が聞こえてきたこと、また最近問題視されていることをお伝えしたいと思います。
- ・ 7月29日に私たちは「シェルター運営を考える」という講座を行いました。今、教育も大事、家庭の中での教育や協力などが大事と言われていた中で、家庭の中の環境の問題として、DVの問題があります。最近は相談窓口が増え、問題化されてきて対応が進んでいると思うのですが、被害者は減ってなくて、全国的な数字で言うと4人に1人はDVを経験している。その中で9人に1人は命に関わる被害に遭ったことがある。それを人口や年齢で割り出すと、年間に100万人の女性がそのような命に関わる危機に遭っているということでした。

しかし、公的な「シェルター」という一時的に身を寄せる場所を利用している人は、同じ年の調査で年間5,000人くらいだそうです。だから、本当にわずかな人しかそこで守ってもらえていない状況なのです。シェルターについては、全国の中でもすごく充実しているところと、優先順位が低くなって使いづらいところの差が大きくあって、鳥取県などは公費で手厚く守る制度が整っているということでした。富山県も公的なシェルターはあるのですが、やはり夜間は対応できないとか、正規の職員さんが所長1人であるとか、頑張っているけれども大変な人ほど受け入れてあげられないという状況があると伺いました。

そんな中で、シェルターを民間でやっているところもあり、全国の民間シェルターがネットワークして、地域間連携と柔軟な対応をできることが強みです。しかし、障害者福祉などは制度が整っているのですが、DV被害者の支援に公的な資金を投入する制度がまだまだ少なく、民間シェルターは本当にアップアップの状態頑張っているところがほとんどということでした。福井県から、民間シェルターをしている方が来て苦しい現状を話してくださいました。富山県には、民間シェルターはありません。DV被害者は、同じ地域にいられないということがあり、ある県で被害に遭った人が他の県で保護が必要なことが多く、全国的な地域連携が非常に重要になります。そういう助け合いができる県である、ということも重要であると思っております。

富山県では性暴力被害者支援ワンストップセンターが今年度中につくられようとしているようですが、そこでもシェルターとの連携は非常に重要です。自宅が知られている相手からの被害の場合、また、家庭の中での性暴力も実は非常に多いとのことで、子どもシェルターというものも重要だというお話を聞きました。

富山県西部6市は生活面でも連携するということなので、県西部唯一の高岡にある男女平等推進センターを活用していくことが重要だと思っております。

また、DVを予防することが重要なので、幼稚園児からでも始めていけるということ学びました。これについても富山県の助成事業で大阪から講師を招いて講座を開きましたので、情報がストックしてあると思います。ぜひ活かしてください。

女性の活躍、富山県では特に女性の流出が問題になっていますが、DV被害者は圧倒的に女性が多いです。女性が安心して住める、何かあったときはちゃんと守るという地域であることが、住みたい地域、活躍できる地域の大前提であると思います。

よって、「人づくり」「未来とやま」「安心とやま」にもつながる施策ということで、シェルターについて今一度しっかりご検討いただき、セーフティーネットが充実した富山県を目指した政策を進めることが、非常に有効だと思います。

それからこの分野に関連して、富山県内にはいろいろな市民グループ、NPOが活動していますので、ぜひ、その力を活かしていただきたいと思います。

#### 【高橋克史委員】

- ・ 富山県のPTAの副会長をしております高橋と申します。PTAの方でいろいろと話を聞いている中では、例えば中学校の部活が少子化によってなかなか数がそろわないために成り立たないという話を聞いていることと、あとは先生たちが長時間労働になっている。研究や研修を含めて非常に長くなっていて、授業に打ち込めなかったりすることがあるのではないかということ、非常にいろいろなことがちょっと耳に入ってきて勉強しております。
- ・ 私は小矢部市民なので、実際に県西部のことを考えたときに、県でも今取り組んでいると新聞では間接的には見ているのですが、福岡インターの料金が取られているのを、それを今また進んでいってはいるとは思うのですが、そこをまた早期に無料化ないし、そういった取組みをしていただきたいと思っております。
- ・ あと、なかなか求人をかけても人に来てもらえない中小企業、零細企業が多くあると感じております。非常に大手のところは、例えば新卒の方、今の若い子たちは恐らく安定や、より休日が多いところを当然望むのでしょうけれども、そういう中小企業、零細企業でもいろいろと特色を出して、求人が多く、人を採れるような環境になればいいなという、以上3点です。

#### 【林説則委員】

- ・ 私は小矢部市商工会の林と申します。県下には12の商工会があり、各地区商工会では地域の活性化に貢献すべきイベント事業等、日々会員様にキメ細やかな経営支援、指導等協力致しているところです。
- ・ ご承知のとおりどの地域も少子高齢化、または小規模零細企業の廃業等に歯止めがかからない現象が続いているのが今日の現状と言っても過言ではありません。全国の99.7%が中小企業であり、その内の85%が小規模事業者であります。僅か0.3%が大企業であります。まさしく日本を支えているのは中小企業であります。日々、小規模事業者は売上減少、従業員不足に大変な苦勞を致しております。行政と致しましても格別なるご指導を頂いてはいるものの、更なるお願いをするところでもあります。それぞれかつての商店街の賑わいを取り戻す事が今重要と考えられます。富山県としても更なる外国人

観光客の誘客、活性化に力を注いでいると報道されています。是非、小規模零細事業者も一丸となり更なる県政発展に一助努力できればと思うところです。

- ・ 時代変化の到来について、私の知人で観光関係の仕事をしている方の会話の中で、時代は刻々と進化している事を痛切に感じ受けました。関西の観光客ご一行様の数名の方が大阪名産品を当地北陸で買い求められたとのこと。買い求めの趣旨、目的は不明ですが何の抵抗もなく、お買い物されたとのこと、言い換えれば地元小規模事業者も昔の概念にとらわれることなく、新しい戦略、発想が必要と思われました。本来ならばご当地特産品に拘るのが姿と思われませんがこのような現象も現実起きている、ということです。少々参考になればと思い、お知らせいたしました。

#### 【夏野元志委員】

- ・ 先ほど寺下委員からもお話がありましたが、やはり海、富山湾、港をしっかり活かしていくことが一つ大事かなと思っております。クルーズ船といいますか、旅客船の誘致も県を挙げて取り組んでいただいているところでありますが、やはりここにしっかり力を入れながら、受け入れ態勢として旅客ターミナルの整備など、外国からの観光客に対応した態勢にしっかり取り組みながら、海からも人を入れていくという取組みにぜひ力を入れていただきたいと思っております。
- ・ それと、何と言いましても「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟が認められた富山湾であります。この魅力をさらに発信しながら、立山連峰の次は富山湾という話もあるようですけれども、ぜひこういった富山湾の魅力を世界に打ち出しながら、外国のいろいろな所から人を呼び込む取組みにぜひ力を入れていただきたいと思っております。
- ・ あと、射水の場合は富山新港がありまして、富山新港の周辺に大きな製造工場等も立地していただいております。そうした中で冒頭、知事からも社会動態がプラスになったという話がありましたが、射水市でも実は県外から射水に来られる方の社会動態がプラスになったという結果が出てきました。中身を見てみますと、何かといいますと外国人労働者の方がたくさん来ておられるのです。その影響があるのか、最近市内の小中学校におきまして、日本語指導が必要な外国のお子さんが増えてきたということでもあります。これはいろいろな雇用の問題などがあるのだと思いますけれども、今後そういう外国人労働者や、それに伴うご家族そろっての移住等があるのであれば、外国人児童の教育体制といった部分にも少し目を向けていただきたいというふうにも考えています。
- ・ 冒頭知事からもお話がありましたけれども、やはり女性の転出が射水でもかなりとどまらないといいますか、非常に頭の痛いところでもあります。子育て支援やいろいろなところでいきますと、最近は産後ケアが非常に重要といいますか、叫ばれているところがあるのかなと思っております。射水市でも市内に立地していただいている産科といいますか、そういった先生と連携しながら、ショートステイであったり、そうした対応ができるような施策を春から行いましたけれども、やはり産婦人科のない地域もあると思いますし、射水も今1カ所なので、これで本当に十分なのかということも非常に難しい部分があると思います。県としてもこういった産後ケアなどの部分に取り組む人的な支援、またいろいろなサポートを頂ければ非常にありがたいと思います。
- ・ 女性の定着を考える上において、やはり共働き率が非常に高い富山県なのですが、子

どもを産み育てながらも仕事ができることを考えたときに、最近ではテレワークなど自宅で仕事をしたりすることを推奨されているところもあるようです。ただ、考えてみますと、自宅で仕事をするといっても、それができる人とできない人がおられるとするならば、例えば先ほど田中市長からもお話がありましたけれども、空き家を活用して、わずかな時間単位で借りられるような仕事場というか、オフィスというか、作業場というか、そういった仕掛けを、ちょっと市単位では負担が大きいということであれば県からもご支援いただいて考えていくなど、そういった女性にいかに定着してもらうのかといったところを射水市としても非常に課題かなと捉えております。県としても多分同じだと思いますので、ぜひこういった面もご検討いただきたいと思います。

#### 【明石委員】

- ・ 私のような小さな会社をやっている、まちづくりとデザインの会社をやっているのですけれども、そういう者がこういうところで何を話そうかといつも思うのですが、今日は「新しい枠とわくわくを、富山県、お願いします」と言いたいです。

こういう基本計画で、「10年後安心して生活したい」といった話があるのですけれども、私はそういう安心を求めるだけでは駄目なのではないかとどこかで思っていて、やはり今の若い人たちはわくわくする職場を求めているのだと思っています。環境の良さや歴史・文化などのようなものは本当に素晴らしいものがあると思います。県西部だけではなくて、富山県内全部。本当に生活文化が極上というか、そういうものがあるので、それを求めて外の人たちが富山にやってくる。

私も移住者というか、Uターンしてきましたし、弊社は女性ばかり7人の会社ですけれども、みんな移住者です。だから、そういう意味で環境はすごくいいと思うのですが、では実際、魅力的な働き口がありますか、今言われたみたいに女性が出産後、子育てをしながら本当に働ける場所があるかということ、意外と時短で、うちの会社は時短で働いている子が2人いますけれども、テレワークもしていますが、やはり最初から働く時間で探す仕事が決まってしまうのです。

だから、そういうのが何とかならないかなと思うのと、移住者の方は基本的に都会から富山に戻ってきたり移住したりという人たちは、ある程度キャリアやスキルのある人が多いです。だから、そういう方たちが自分たちのスキルやキャリアを活かせるような仕事が本当に富山であるのかとあって、なかなか選ばれないことが多いと思っています。だから、中小企業の方たちは、人がなかなか来ないという問題もあると思うのですが、ここは思い切って新しい枠を作って、ちょっと特別枠で移住者の「ちょっとうちの会社も困っているんだけど、ちょっと特別枠1人だけやります」といったチャレンジのようなことを富山の人たちがどんどんやっていったら、「何か富山、面白いな、わくわくするな」というふうになるのではないかとと思っています。

#### 【川村委員長】

- ・ ここで、ほぼ半数の方からご意見を頂いておりますので、知事からご意見に対するコメントをお願いしたいと思います。

## 【石井知事】

- 皆さんから大変多岐にわたるご意見、ご指摘、ご提案、大変ありがたいと思います。お一人お一人お話しするのはちょっと難しいですけども、最初に牧田委員から出た、特に県西部は区域も広いし、二次交通、三次交通が大切というお話がありましたが、それはおっしゃるとおりで、県内全域でそういう問題があると思います。公共交通やあるいはタクシーの問題も含めてどうするかというのは、県全体で別途、研究会を作って議論しているさなかで、先ほどあいの風とやま鉄道も枝線との関係の問題意識が足りないというお話もありましたが、そういった点も含めて議論しております。どうしてもこれは費用対効果のこともあるものですから、いろいろ工夫して利用者が少ない場合には、例えばバスではなくてデマンドタクシーにするかなどいろいろな議論があるわけで、そうした点はしっかり大事な論点として取り組んでいきたいと思います。
- 稲田委員のおっしゃった JR グループが外国人向けにやっている格安のチケットですが、ああいうものにうまく乗れないかという点は、例えば立山黒部についていうと、固有名詞を出していかどうか分かりませんが、TKK さんとか、立山黒部貫光さんが、われわれもお手伝いしましたが、JR グループと話し合っただけで JR グループのパスにうまく立山黒部も乗せてもらってやっていますので、そういった点はまずは加越能さんや富山地方鉄道さんで、五箇山や白川郷も入れていいと思うのですけれども、少しやっていたいでいます。県としてももちろん応援するのはやぶさかではありません。
- 能越自動車道の 4 車線化や伏木富山港と道路をセットにしてといったお話もありました。いずれはぜひそういうことを目指したいと思いますけれども、東海北陸自動車道はようやく富山県側も昨年、付加車線 2 カ所 10km が決まって、明後日に起工式があるということです。いろいろな政策の事業費もありますので一気にには行かないと思いますけれども、特に港と道路をなるべく総合的に考えるというのは全くそのとおりだと思いますので、また努力していきたいと思います。
- お話しのように教育水準も高い、環境もいい、災害も少ない、もっとアピールすべきというのはおっしゃるとおりで、私も東京、名古屋、大阪で毎年それぞれ企業立地セミナーをするようなときには当然そういったお話をしているのですが、うまく言わないと、特に、今挙がったようなところは首都直下や大規模災害があったりするものですから、「そんなに恵まれているのか」と言っただけで少しかまされる面もあるぐらいなのですが、ぜひその点は工夫しながらアピールしていかないといけない。
- 県西部は金沢や能登への通過点になっているというのも確かにそういう面もあると思います。ただ、これは高岡市や南砺市、砺波市、氷見市、小矢部市もそうだと思いますが、皆さんの努力でだいぶ変わってきたかなど。特にアウトレットパークは、ご承知のように、あそこに来るお客さんは 4 割が富山県内、4 割が金沢の人、あと 2 割が福井や関西、一部は岐阜県ということですから、別にアウトレットパークだけではありませんが、だいぶ変わってきていると思います。

そうした点もこれからうまく、先ほど大型商業施設と商店街が対立するというのではなくてうまく連携して相乗効果という話もありました。なかなか絵に描いたようにうまくはいかないのですが、おっしゃるとおり、商店街といってもそれぞれ特色のある個店をいかに確保できるか、志のある、夢のある、情熱のある、少しとがった経営者をい

かに確保できるかということとも関連するのですが、ぜひそういう努力を今後もしていきたいと思います。

- ・ 「富富富」とコシヒカリ、あと飼料用米では寂しいので、業務用米という話もありました。多分、外食産業などに対する売り込みを考えろとおっしゃっているのではないかと思います。これは確かに大事なことでありますから努力してまいります。
- ・ 三世代同居が多いという特色を活かせというのもそのとおりだと思います。これも受け取り方で、東京辺りと言うと「それはすごいな、立派だな」と言う人たちと、「結構息苦しくないか」と感じる人たちがいるものですから、ここはよく考えながら進めていきたいと思っております。
- ・ 四つの区分の話がありました。太いミシン目というお話もありましたので、どの程度太くするか、また今後の議論を踏まえて真剣に考えていきたいと思っております。
- ・ それから、おっしゃるとおり世界文化遺産や例えば高岡では国宝瑞龍寺などを点で捉えるのではなくて、歴史的遺産、文化的なものをいかに活かしていくかというのは、これから日本の観光にとってすごく大事な視点で、そのために本が出てベストセラーになったものもありますから、そういう視点を大事にしてやっていきたいと思っております。

また、合掌造り家屋をいかに活かすか。南砺市さんは既に鈴木忠志さんが利賀村である意味でやっている面もあるのですが、この合掌集落、家屋をうまく活かす。南砺市でも随分努力されているので、これは県としてもぜひ応援したいと思っております。

また、田中市長はあまりおっしゃいませんでしたけれども、聞きますと既に井波などでは若手の建築家の方が空き家を自分の力で改造して、それを宿泊施設にしてすごくブレイクして、外国人のお客さんがいっぱい来ているという例も幾つか聞いております。こういったものもうまくモデルにして、もっともっと横展開していくということかと思っております。

それから、補助制度というような話も確かあったと思っておりますが、確か高岡かどこかで全部ではありませんが、例えば金屋町など幾つかのところ、どれもこれもというのはなかなか難しいのですが、空き家も多いですから、ある程度歴史的な価値があるとか、周辺のまちづくりとの関係でこれは非常に必要度が高いとか、地元の皆さんがこれをみんなで盛り上げようとしているとか、一定の要件があるものについて、実は県の補助制度を作っていて、またそういうモデルになるような取組みがありましたら手を挙げていただければと思います。

- ・ 酒米にも力を入れていらっしゃるということで、これも大事なことだと思います。
- ・ 女性の委員の方々から DV の話などいろいろございました。例えば、県は性犯罪などの被害者支援センターのようなものを年明け早々にもスタートさせようと思っております。これはお金の問題もさることながら、今まで民間の篤志家の方が随分頑張っていたのですけれども、お金の問題だけではなくて、それをしっかり大事なテーマというか、ある意味では非常に難しい話ですから、それを担う人材をしっかりと確保してやらないと、立派な看板を立ててもやっていることは情けないということになってはいけませんので、それをしっかりやりたいと思っております。

また、富山県は今、女性相談センターが婦中にある西警察署のそばに作ってあるのです。あれは、ちょうど私が 12 年半前に知事に就任したときに、何人かの女性の方からそ

れまであった女性のいわばシェルターの的な役割を果たす施設があまりにも貧弱で、県として恥ずかしいと思うべきだというお話がありまして、私も早速見たら「これは確かにそうだな」ということで、私が力を入れて造った最初の箱物でした。行政改革の真っ最中でしたから、夏野市長にも当時だいぶお世話になりましたが、あの中で箱物として富山県はあれが最初なのです。というふうに、問題意識は持っているのですけれども、これはまた今いろいろとお話もありましたので、改めてよく勉強しまして、いろいろな政策の中で整合性を取りながら進めていきたいと思えます。

- ・ 高橋委員がおっしゃった福岡インターの話は、小矢部市さん、高岡市さんともご相談しながら、なるべく皆さんが納得できるいい形になるように進めているところでございます。
- ・ 結局、小規模零細企業に来てくれる人がいないという大変深刻なお話がありました。やはりそうかなと一般論としては思えます。結局、これだけ人手不足、例えば有効求人倍率がつい2~3年前まで1を超えることは大変なことだったのに、もう富山県は1.7ですからね。それで全国平均が1.0を超えるようになってきた。平均だけではなくて、全部の都道府県で1を超えるようになってしまった。そうすると当然、人の供給が足りないわけですから、生産年齢人口が2年前のデータで日本全体で毎年116万人ぐらい減っている。富山県だけで1万3000人減っている。それも少し緩和されましたけれども、とにかく富山県だけで毎年1万人に近い生産年齢人口が減っていくわけですから、そうするとそれなりの処遇もしてあげる、あるいはお金の問題だけではなくて、企業やお店に入ったら、こんなに張り合いのある仕事ができるというふうに思わないと、今の若い人は売り手市場ですから、なかなかここで勤めようと思わない面があります。ですから、これはなかなか頭の痛い問題であります。

なお、県の制度として、今度、国の厚生労働省に話をしまして、地域活性化雇用創造プロジェクトというものの採択を受けています。中小企業で例えばものづくり人材など、どれもこれもというわけにはいきませんが、一定の要件に当たる企業で、前向きな生産性があるなどいろいろなテーマをクリアできていれば、例えば半年間、それを担う人材を採った経費を半分とか8割ぐらい補助するという、ある意味では大変結構な制度も作ってあります。ただ、一定の要件に当たらなければいけません、またご活用いただければと思います。

- ・ 射水の夏野市長がおっしゃった「世界で最も美しい湾クラブ」にせっかく入れたわけですから、これは立山黒部と併せてぜひ最大限に活用していきたいと思っております。幸いタモリカップも3年連続で来ましたし、富山マラソンも富山湾が一つの魅力になっている。湾岸サイクリングもやっている。できればサイクリングロードも車道と併用のところが今は大部分ですから、もう少し専用道路も造る。また、お話しのように旅客ターミナルなど。新湊マリーナにもだいぶ力を入れていきますから、あまり射水市さんの方ばかり良くすると他からおしかりを受ける面もありますけれども、また努力してまいりたい。
- ・ また、産後ケアが重要だというのもおっしゃるとおりだと思いますし、これは県としても取り組んでまいります。産科医の話は各市町村、悩んでいらっしゃるところが多いのですが、ご承知のように結局、産科医として経営が成り立つには1年間に300人ぐら

いの新生児を扱わないととても無理だという計算になるので、そういう言い方をしては悪いですが、その辺のニーズとのバランスということかと思います。

- わくわく感が大事だというのは、そうなのだろうと思います。私は高岡の皆さんがご存じの、ある高岡銅器というか、錫器などのご専門の経営者とお話しして感動したのは、あれぐらいになると、東京などの名のある美大などを出たような学生さんが「ぜひおたくに採用してほしい」と言ってくる。「でも、あなたの経歴から見たら、もっと処遇の良いところがあると思うのだけど、そんなに払えませんか」と言っても、「ぜひ、お金はもちろんある程度欲しいけれど、それよりもおたくの店で、あなたと一緒に仕事したいんだ」という若い人が結構いるというのです。それは非常に立派な経営者で、みんながみんなそうはなれないと思いますけれども、これからの企業経営はそういうところも、つまり給料をたくさん払えばいい人が来るということではなく、やはりそういう面が必要だと。

それは富山県にとっても同じで、安心で、環境が良くて、教育水準が高い、もちろんそれ自体も大変大事なことだと思いますが、さらにもう少し若い人や女性の皆さん、特に最近女性の人数が足りなくなっていますので、それを考えていきたい。そういう意味で、今度、地方大学の活性化というテーマで国の有識者会議でも議論してもらっていますけれども、例えば富山の医薬品、あるいはアルミ、さらにはデザインといったところで富山県は日本有数の拠点だと、あるいはトップだと言ってもらおうようにしているのも、例えばデザインなどは正直女性の皆さんは相当意識している、そういう取組みでございます。全部が全部希望すれば、あるいは少々努力したら、みんな実現するというものでもありませんが、また努力していきたいと思います。いろいろ意見が出ましたけれども、取りあえずこんなところで、ありがとうございました。

#### 【川村委員長】

- それでは、引き続きご意見を伺いたいと思います。尾崎委員、いかがですか。

#### 【尾崎委員】

- 社会福祉協議会という立場的に、やはり今の学童の子どもたちの全部がなかなか入り切れない。女性たちが一生懸命輝く働き方をするための子育てへのフォローがいまいち足りないかなと。各地区には一応充実しているのですけれども、やはりそういうところでちょっと足りないかなという気がします。そして、先ほどから三世代同居でちょっとつらいものもあったり、でも生き生きと頑張れるようなすてきな高岡だと私は思っています。

そういう意味では、どんどんそういうところも活かしながら、子どもたちがジュニア福祉活動といって、地域の高齢者の方といろいろ触れ合う時間を持っています。そういうものもどんどんしっかりボランティア活動ができる子どもたちを育てる。小学校のときから5年生と6年生が頑張っているのですけれども、そういうところの教育の重大さといいますか、重要さをこれからもアピールしてやっていただけたらと思っています。

- それと一つは、大伴家持の生誕1300年という、これは私が「あいの風」というガイドに関わっていたところで、高岡だけの専売特許ではなくて、富山県全体で「家持さんの



いた県ですよ」ということで、文学館の方でいろいろやっていただくのも、自分たちの地域だけではなく、全体を捉えて富山県でアピールするというのもすごくいいかなと思っています。そういうことでは本当にこれは丸だと私は思っています。

- それから、先ほどから南砺市長さんや砺波市長さんも「ミシン目が欲しい」と言われましたけれども、私はしっかり薄いミシン目で6市で頑張っていかなないと、私は3カ所ずつ分かれてというのは絶対よくないと思うのです。ガイドをしているとやはり、高岡へ来られた方は「氷見へ行くよ」「南砺へ行くよ」という方もおられます。ですから、これは6市で連携して頑張ろうよという意識的なものを私は持った方がいいかなと思っています。

#### 【林正之委員】

- 私の方から2点だけいきたいと思います。一つは国際化、一つは子育てです。日本は人口減ということですが、30年後の2050年、国の統計によりますと、日本は人口24%減ですが、世界的に見ると32%増ということでもあります。そんな流れで読み解くと、ロシア、中国、韓国、北朝鮮が日本海の魚を取り尽くす、あるいは海洋に進出するというのが分かると思うのですが、当然やはり食料がだんだん枯渇していく。そういう中でやはり手っ取り早いのは、海洋進出であります。

それは置いておきまして、その中でやるべきことは、先ほどからどなたもおっしゃっていますように、人口が減っていく中で外国人観光客をどう呼び込むかということが一番大事だろうと思っています。特に県西部地域、それぞれ特色ある観光がございますので、そんなところを持っていく。先ほど言いました東海北陸、能越の4車線化や、南砺市長がおっしゃいましたが、ICカード、特にあいの風、そして城端線、氷見線がありますので、城端線、氷見線の活性化、あるいは万葉線あるいはバス等ありますが、例えばカードを統一して、都会では当たり前でICOCAなどを売っていますが、ぜひ統一してカード一つあればどの電車もどのバスも乗れるというのが都会人からすれば当たり前ですので、観光客向けにそんなことが必要だろうと思っています。

- それから、射水市さんと氷見市はぜひとも「世界で最も美しい湾クラブ」をPRしていきたいと思っています。知事にもいろいろ言っていただきましたが、私はそれに加えまして、氷見市では今年から私が市長になりまして、モットーが「もっと元気出よう」ということで、氷見の定置網は400年の歴史がありますが、これを世界農業遺産にする取組みを始めたところでございます。そんなことを使って観光に、もっともって県西部地域一丸となって、金沢、富山、そして五箇山、高山と連携を図っていくべきだろうと思っています。
- もう一つは、子育てと教育であります。先ほども県の目標の合計特殊出生率1.9ということですが、今は1.5、氷見市は1.37ということですが、やはり2.0に近付けるためには、第2子の壁ということで、県では2年前から第3子の保育料が無料化になっていますが、やはりそれでは足りないということで、氷見市では今年から第2子の無料化を始めたところであります。それと併せて、家庭で育てる人にも保育料と同額の1人当たり2万円を支給することにしました。これをぜひ私は、県全体で取り組んでいただけたらありがたいなと。そんなことで、やはり子どもをみんなで県民全体で育てる、

そんな醸成をしていくことが大事だろうと思っています。

- それから、富山はやはり昔から教育県であります。そういった中で学校の ICT 教育をやることによって、子どもたちが自分で考えて能動的に勉強する仕組みができると思いますので、そんな取組みもしていただければと思います。氷見市も今年は電子黒板あるいはタブレットパソコンを全学校に配る予算を付けましたので、そういうことをやることによって富山の子どもたちが元気に育っていくと思っております。

#### 【小泉委員】

- 先ほどから少子ということで、子どもたちがすくすくと育つためにはどうしたらいいのか、人口増にはどうしたらいいのかというお話をどんどんしておられます。私ども婦人会としましては、それこそ婚活に力を入れておまして、やはり子どもが増える前に結婚していただかないと、子どもがなかなか増えないので、小矢部市、南砺市、砺波市と本当に婚活にはすごく力を入れておられるので、射水市さんも本当に最近婚活事業をされて、躍進的に本当に増えてきた中で、高岡はちょっと埋没しているのですが、そういう意味でそれこそ 6 市で情報交換などして、「高岡市は高岡市で固まって結婚すんがいよ」というのではなくて、南砺市からお嫁さんをもらったり、小矢部市にお嫁に行ったり、そういう 6 市で共通の理解を図りながら、どうやったら結婚に向けて若い方たちがそういう方に向いていただけるかということ、6 市で相談させていただければうれしかないと考えています。

それこそ高齢になってきまして、高岡市の方の婚活も 40 歳以上の男性の方がほとんどです。女性はほとんど手を挙げてこない状況の中で、なかなかまとまらないのです。ぜひ市長さん方にはお願いしたいのですが、6 市で連携した婚活事業をさせていただければありがたいと思います。よろしく願いいたします。

#### 【清水委員】

- 観光ガイドをしておりますので、ちょっと観光の面ということで、新幹線が来たときにはいろいろな形で、テレビだの、雑誌だの、いろいろなもので富山県をアピールしていただいたのですが、そのときは確かに全国からたくさんの観光客の方がいらっしやったのですが、やはり 3 年目にもなると正直言って最近、例えば瑞龍寺の数字を見ましても新幹線開業前に近付いたような数字になってきております。特に団体が減っているということなのですが、個人の方は結構まだ街歩きということでたくさん歩いていただけるようにはなったのですが、やはり新幹線が来るというだけで、そのときに一生懸命熱を上げるのではなくて、これはやはり持続していただかないと、全体にもっと富山県を、高岡だけではないのですが、いろいろな所を回っていただくためには、もっとマスコミなり何かをちょっとうまく使っていただきたいと思います。
- それと、私たちはデータを取っているのですが、新幹線ができてから確かに関東方面の方は非常に増えたのですが、逆に関西方面の方が非常に少なくなってきました。関西、特に広島方面、西方面の方です。今まではそれなりに結構来ていただいた方もちょっと減ってきているものですから、あまり新幹線ばかりではなくて、違う形でもっと来ていただけるような形にしたいと思っております。それと、来られましたら「五箇山

に行くときはどうしたらいいですか」とか「氷見に行くときにはどうしたらいいですか」とよく聞かれるものですから、もっとアクセスを充実したような形で、私たちも紹介したいと思っておりますので、またそれこそ6市併せてということをお願いしたいと思っております。

#### 【花島委員】

- ・ 南砺市の花島でございます。先ほど私どもの田中市長が思う存分お話しされました。田中市長、ありがとうございます。私の横は小矢部市商工会の林会長がおられますけれども、私どもも大変人手不足ということで、私は実はショッピングセンターのお世話もさせていただいておりますけれども、各テナントさんは本当に人がといますか、従業員、スタッフがいなくて、それぞれ大変な目に遭っておられるということでございます。当然経営者は長時間労働にもなるということで、経営もままならぬという厳しい状況にもございます。

ぜひ雇用の面で一つ大変難しいことでありますけれども、よろしくお願ひしたいなということと、やはり氷見線・城端線の直通化ということも大変大事なことかなと思っております。城端線につきましては、田中市長も大変力を入れていただいております、城端線のハブ化ということで岐阜の白川郷、五箇山等の太い、それこそ点から線へということで力を入れていただいております。直通化とあいの風との連携ということで一つぜひお願ひしたいという思いを持っております。どうかよろしくお願ひいたします。

#### 【江尻委員】

- ・ 利賀村で林業をしております江尻です。皆さまのお話を少しお伺いして、林業をしている者としてちょっと思ったことを述べさせていただきます。たくさんの資料で県の魅力についてまとめていただいている中で、ぜひもうちょっと取り上げていただきたいと思った言葉が「多様性」です。先ほどから出ていますように富山県はとてもコンパクトな県ですが、水深 3000m から立山の 3000m までがとても近い。環境的には小さい面積の中にすごく多様な環境があり、その中にある資源もとても多様です。一つの資源がたくさんあるのではなく、多様なものがある中で生活してきた私たちの先人たちは、多様なものを多様に使っていく力がありました。

ところが、私たち山の手でも本当にまちの暮らしに近いような生活になり、多様な資源を多様に使っていく力が少なくなってきたように感じています。例えば林業では、杉は真っすぐでない製品になりません。なぜかという、機械に入る真っすぐな柱だけが必要になってきたからです。皆さんご存じのとおり、五箇山の方では根元の曲がった木の応力というのはすごく強いもので、曲がっていますからちょっとチェーンソーを入れたら倒れそうに思われるかもしれませんが、ちょっとチェーンソーを入れるとガチッと挟んでくるほど起こす力がすごいのです。そういった応力も用いて、大きな大きなかやぶき屋根と、大雪を支える強度を保つような使い方を先人たちはしてきたのですが、そうした多様な資源を多様に使っていき力が少し下がってきているように感じています。

そういう多様性に対する対応力を取り戻して、また古いものばかりではなく、そこか

ら新しいものへ対応していく力というのは、人口が減っているのが先ほどから大変課題になっていますが、この人口が減ってきた今こそ、人材に対してもそうだと思います。ダイバーシティというカタカナ語も出ていますが、一人一人、男性だとか、女性だとか、障害者、健常者といったレッテルだけではない、この人に本当に向いているものをじっくり見たり、一人一人の有用性のようなものを感じられるチャンスではないかというふうに思っています。富山県で一番人口が激しく少なくなっている利賀村から一言申し上げさせていただきます。よろしくお願いいたします。

#### 【栗栖委員】

- 私はこの度、県高岡文化ホールの子育ての会の副会長としてこちらに参りましたが、文化ホールは今年30周年を迎えまして、呉西地区はもちろん、富山市からもたくさんの方々に会員になって頂いております。私も30年前、文化ホールが設立された時から役員としてお世話に携わり、現在は副会長をさせて頂いておりますが、音楽が人間にとって非常に大事であるという事を常々思っております。

私自身は音楽教育の仕事をしておりまして、リトミックという人間の基礎教育を、下は0歳から上は100歳近い方のご指導もさせて頂いております。この度のたくさんある資料の内容で、他のいろいろな行政関係についてはその方面の方々にお任せし、私は「子育て」「人づくり」ということへの意見を述べさせていただきます。

- これから富山県、日本を担う子どもの育成がこれからの時代に非常に大事ではないかと思っております。子どもはお母さんのお腹に宿ったときから、教育は始まっているのです。お腹の中からの教育は、胎教として音楽などを通じて子どもたちを育てていくこともあります。

また、産まれてからの子どもさんは市町村の子育て支援センターが充実しており、私も高岡市の支援センター2か所及び、富山市、射水市、砺波市、小矢部市でリトミックの指導をさせて頂いております。

健常児は勿論なのですが、障害児、障害者の方の施設でもリトミックが非常に皆さんから求められ、色々なところで指導させて頂いております。最近は障害児が増えていまして、先ほど尾崎さんも福祉関係のお話でしたが、やはりその方たちの対応など、これは人づくりの中でも、小さいうちからこの子たちが大人になったときにどうなるのかという事も含めて、いろいろと考えていかなければならないのではないかと思っております。

- あと、幼児教育の指導者育成の仕事で、大学の幼児教育科の学生さんの授業や、県、市の保育士会などでの研修会など致しております。少子化を叫ばれる中、幼児教育者、保育士の方が足りないとも言われます。大学などでこんなにたくさんの学生さんを送りだしているのにどうして足りないのだろうと不思議に思うのですが、実際に学生さんが子どもに携わる仕事をしたいという気持ちで一生懸命勉強し、いざ卒業して就職したら、現実自分たちが思っていたのと違うとか、色々な思いがあると聞きます。やはりお給料の件が一番の現実問題です。その事については全国的だと思いますが、先ず幼児教育の指導者、教育者、保育士の人たちを育てることから、良い子どもづくり、人づくりをしていかなければいけないのではないのでしょうか。保育士など子どもの生命を守りなが

ら育成する方々にとって責任のある、非常に大変なお仕事です。仕事の内容とお給料とのバランスによって長続きしない傾向です。特に男性保育士は結婚して家庭を支えていかねばならず、お給料の面でかなり問題があるようです。県の方にもぜひお含み頂いて、指導者が安定した状態から「人づくり」に取り組めるよう、考慮して頂きたいと思えます。

子どもは小学生、中学生、高校生全てですが、先ず幼児教育が要なので、ぜひここから取り組んで頂きたいと考えます。リトミック教育は人間教育と言われ、心と身体のバランスのとれた基礎教育です。集中力を身につけ、社会性や創造性を高める上で効果があります。

- この資料の中でも、「人づくり」で「優れた知性、豊かな心、たくましい体を持った子どもの育成」と書いてあるのですが、たくましい身体というのはスポーツ関係が多いと思うのです。ですから、多くのお母さん方もプールやスポーツ教室などにはすごく興味をお持ちで、子どもたちにさせています。豊かな心ということはそんな環境をしっかりと育てなければいけないと思えますので、幼児期に大切なしっかりした教育をぜひ県の方でお考え頂きたいと思っております。

#### 【服部委員】

- 高岡で不動産の鑑定業を営んでおります服部と申します。また、こういった職業を活かしまして、「たかおかまちっこプロジェクト」と申します任意の団体で、若者のまちなか居住を推進するような活動を、時には空き家を使って、私たちの思いの中では明石委員が言うようにわくわくするような活動をしているつもりです。
- 今日はこの二つの立場で、一つずつ思うことを申し上げたいと思えます。今回の計画案の中からちょっとキーワードを拾っていくと、教育という言葉と、交通などの利便性という言葉があります。また、環境もあると思えます。こういったものを不動産の視点で見っていくと、県内には幾つかこういったキーワードを基に、いわゆるキャラが立った地域というものがありまして、そういった所は地価水準が上がっていたり、最初から売り出しが高い水準で展開されている所があります。例えば富山市であれば芝園地区であったり、砺波であれば出町地区、それから射水市も小杉にすごく環境の良い所があったりして、高岡でいいますと、強いていうと京田地区などが挙げられるのかなと思っております。

県の総合計画を推進して行って徐々に充実されていくと、こういったエリアが他にも出てくるのではないかと思います。例えば県の他の地域の方には、こういうエリアをつくらうというようなキャラ立ちしたエリアが透けて見えるような計画だと、いいのか悪いのか分かりませんが、他の人もこういうエリアを少しでもつくりたいと思ったり、県外の方に対しては「こういうエリアがあるので移住にはいいですよ」といった発信ができるような見方があってもいいかなと思っております。

- もう一つは移住や観光、全般的なお話なのです。こういったものはたくさんの方の支援メニューがありますし、私たちもたくさん頂いてきておりますけれども、視点が使う人に向ける支援メニューが多いように感じます。そうではなくて、反対側の受け入れる側のモチベーションを高めるような視線があってもいいのかなと思っております。

ちょっと具体例で言いますと、例えば子育てで、幾つもの制度がないとか、小さい子を受け入れるという話がたくさん出てきましたけれども、例えば私が小さい頃はどこかの会社などに行くと、夏休みはその辺りに子どもがうろうろしているのです。空いた机で宿題をしたり、友達同士で遊んだりといった姿がありましたので、制度があっても会社の雰囲気はそれを使えない雰囲気になっていることもあると思います。もっと制度ばかりではなく、「子どもってそんなもんなんだよ」というような、「富山県ってそういう所なんだよ」というような雰囲気があると、先ほど江尻委員さんが言われました多様性というのですかね、生きやすい世界というか、環境になるかなと思います。

同じように、先ほど田中委員が空き家活用のごことでちょっと含みがあるような意見をされましたが、こういうものも例えば支援というのは金銭メニューはもちろんありがたいのですが、金銭ばかりではなく、そういうものを受け入れるような土壌、具体的にはいろいろあると思うのですが、「富山県って、そういうことができるんだよ」という発信があると、わくわくしたい若い人がたくさん来るのではないかと、私たちの日頃の活動では思っています。

実際に移住したいという気持ちを持って遊びに来られる方が結構いらっしゃいますけれども、かすっていくといいますか、能登へ行かれたり、他の地域に住まわれるという結構悔しい思いをしたことがたびたびありますので、一つ一つのメニューもそうなのですが、やはりもう少しベースにあるものが、もっと受け入れるような姿勢が見えてもいかなと思っています。

#### 【八十島委員】

- ・ 高岡市に本社を置きます、プラスチック製造業の(株)タカギセイコーの社長をしております八十島と申します。私の立場としましては、経済界に属する委員ということでございますので、この観点を中心に申し上げます。したがって、これは既に県の総合計画に盛り込まれているテーマでございますが、やはり昨今では、最初にも言及されておりました第4次産業革命として注目されますAIやIoT、ロボット等を視野に入れて「働き方改革」などと言われておりますが、富山県におきましては、この第4次産業革命のコアの1つとされるIoTに関しましては早期に取り組み、富山モデルを策定しようと推進されているところでございます。

私どもの製造業の関連から見ましても、日本のGDPは世界第3位ではございますが、1人当たりでは世界第27位というのが現状であります。一方、輸出額に関しましても、世界第4位ではございますが、1人当たりでは世界第44位という状況であります。このように生産性という観点から色々の国と比較した場合は、1人当たりの生産性としては大変低いというのが実態であります。これらの現状から、第4次産業革命におけるIoTの駆使などによる生産性アップに向けて、県を挙げ計画されておりますが、それぞれの内容については、なかなか難しい点もございしますが、やはりこの点の強化・推進がポイントと考えますので、是非ともお願いしたいところでございます。

- ・ また、環日本海時代が到来するというごことで、私どもはよくお客さまに「逆さ地図」を紹介しながら色々ご説明をしております。地政学的には良好な関係を保っている国々ばかりではございませんが、企業のグローバル化への支援や交通網の整備等、これらも

計画には含まれておりますが、やはり環日本海地区のロシア、中国、韓国、さらには東南アジアの企業と県内企業とのビジネスマッチングという観点にも重きを置き、これらの強化にも取り組んでいただきたいと思いますと考えております。

- 一方、頻繁に指摘されております「採用難」の課題についてでございますが、私どもの就学の頃には、7:3体制といわれて、高等学校などは職業科が7で、普通科が3だったのが、おそらく現在ではこの割合が逆転している状況ではないかと推測されます。したいがまま、私ども製造業におきましても工業高校卒の社員採用は本当に困難になってきておりまして、この現状を踏まえ、先を見通した富山県としての教育体系・計画への取り組みが大変重要な課題であると実感しております。いずれにしましても、デジタル化時代の進展により、ロボットが仕事をする方向性の中で、大切な職種を担う人材が減少していくということは、すなわち会社の存続危機にもつながるということに充分留意しつつ対処すべき課題であると考えます。
- 最後に、これまで申しました課題と直接関係のない「観光政策」に関するものでございますが、私が若い頃、大阪から帰ってくる際に「富山に帰ります」と言うと、「いいね、旅行気分でしょう」とよく言われたのであり、「温泉があるし、いろいろな景色も良いところも多い」ということでしたが、もちろん富山にはそれ以外の文化財等も多くございます。これらを上手に宣伝していく必要があり、点のままではなく線や面にまでつなげていく必要があるということでもあります。新幹線の新高岡駅の開業の際には盛んに「飛越能の玄関口」として喧伝されましたが、新幹線によって金沢に行ってしまうという懸念や、過去には「七尾線を活かすため、絶対にJRはかがやきを高岡に止めない」と言われた評論家もございましたが、やはり五箇山あたりから城端、砺波を経由して氷見に至る間、更には能登へ至るルートというものは観光資源としては大変良い価値あるものであると思われまます。色々な観光プランを策定するというのも計画に記載してありますので、呉西に住んでいる一人として、この点に関する政策を重点化し、より具体化した形で展開していくことが重要であろうと実感しております。

#### 【澁谷オブザーバー（桜井委員代理）】

- ミニマムなところで、「産業観光をはじめとした多彩なツーリズムの展開」というところで、「映画・ドラマの制作誘致に積極的に取り組む」とございます。現在、県を先頭に「義仲・巴」広域連携推進会議に取り組んでいただいております。「義仲・巴」の大河ドラマ化という今後の明確な目的がある中、広域的な活動でもありまして、ぜひともこういう文言を取り上げることはできないものかというふうに思っております。

#### 【村田オブザーバー（高橋正樹副委員長代理）】

- 今日、代理で出席しております副市長の村田でございます。私の方から2点ほどお願いしたいと思っておりましたが、1点目の広域ネットワークにつきましては、各委員さんから高速道路の4車線化や利便性の向上、それから新幹線の延伸、港の整備、氷見線・城端線の直通化、あいの風との連携等々、お話がございますので、その辺は各委員さんの意見と同様でございます。
- もう1点は、やはり呉西地域の発展に寄与するような県立の中核設備の支援というも

のをお願いしたいと思っております。ここには3点ございまして、やはり西部6市で力を合わせてやっておりますので、そこにおける交流の拡大や産業・文化の振興に寄与するような、広域的な県立の中核施設の設置をお願いしたいということが一つあります。

- ・ もう一つは、現在、工業技術センターであるとか、ものづくり研究開発センターが既に立地しております二上地区におきまして、さらに富山大学さんで構想されております研究センターの誘致等で、呉西圏域はもとより県全体のものづくりの研究拠点を形成していきまして、県の振興に寄与するものにしていただければありがたいと思っております。
- ・ もう1点は、これも既に県の総合デザインセンターが設置されておりますけれども、先ほど知事さんからデザインについて触れられましたけれども、その拡充に合わせて高岡市デザイン工芸センターとの連携強化に基づくデザインの振興を図っていただきまして、ここも呉西6市のみならず県全体の振興に寄与するような拠点としていただければありがたいと思っております。

**【川村委員長】**

- ・ ありがとうございます。まだいろいろご意見もあると思えますけれども、時間もオーバーしておりますので、この辺で山本総合政策局長からコメントと併せて閉会の挨拶をお願いしたいと思います。

**【山本総合政策局長】**

- ・ 知事が所用のため退出し、申し訳ございませんでした。知事のコメントの後でございますけれども、観光でありますとか、教育、文化、婚活、子育て、地域経済等につきまして、県西部地域特有の課題あるいは県全体の課題等についてご意見を頂きました。本当にありがとうございます。今頂いたご意見につきましては、しっかり知事に伝えまして、県の総合計画素案に反映させていただきたいと思っております。

それから、途中にありました大変重要な課題であります県西部地域の個性、多様性、それからいろいろな連携性などにご意見を伺いました。最後、この地域のミシン目の太さ、濃さにつきましては、しっかりまた議論させていただきますのでよろしく願いいたします。今日はどうもありがとうございました。

**【川村委員長】**

- ・ ありがとうございます。それでは、これで会議を閉じさせていただきたいと思えます。議事進行についてご協力いただきまして誠にありがとうございました。